

若ツナサミット実施報告

2023年12月23日(土)の19:00から21:00に、第3回若ツナサミットをオンラインで開催しました。

「若者×ツナグバ」は、若者が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援する事業です。そして、この「若ツナサミット」は、その目的のために、若者×ツナグバに参加した2団体の成果報告会を兼ねて、参加する若者たちと意見交換する場です。

参加者は、今年度支援団体7名(島会議5名、自然でトトノウ会2名)、アドバイザーやOG、若者を含む招待者や一般参加者にマツダ財団を加えた総勢20名が集いました。

19:00に開始し、まず、最初にアイスブレイクを兼ねて参加者全員を紹介しました。

続いて、第一部は今年度参加の2団体による活動成果報告を、次の順番で行いました(発表7分、質疑応答3分)。

① 島会議 呉市大崎下島 大学院生中心

<https://mzaidan.mazda.co.jp/wakatsuna/summit/2023/2023summit%20document1%20shimakaigi.pdf>

② 自然でトトノウ会 社会人中心

<https://mzaidan.mazda.co.jp/wakatsuna/summit/2023/2023summit%20document2%20shizen.pdf>

各団体、今年度の取り組みをまとめた資料を使って、簡潔かつ熱のこもったとても良い発表でした。また、活動拠点におけるニーズの把握方法や、メンバー構成、若者と協働して活動する場合の若者への声のかけ方、誰でも参加できる工夫についてなど、活発な質疑応答がなされました。

続いて、第二部の意見交換会に入りました。

テーマは2つ。

テーマ①:「仕事・学業と市民活動を両立するための工夫」

テーマ②:「若者に・大人に言いたいコト/聞きたいコト」

まず、**テーマ①**について、2団体それぞれから選ばれた2名のパネリストに、自分や団体の考えについて、1~2分程度で発表していただきました。

・島会議「大学1年生の時に参加したが、授業はフルであり、始めは大変だった。半年が

過ぎたころ、島会議の活動時間が自分で作れるようになり、メリハリのある生活が送れるようになった」

- ・自然でトトノウ会「メンバー間で役割分担をしっかりと行い、両立を図った。時間が限られているので、目的意識を持ちモチベーションを保った」

などの意見がありました。

これらの話を受けて、3つのブレイクアウトルームに分かれて30分程度のグループディスカッションを行いました。2団体のメンバーにリーダーとサブリーダーを務めてもらいましたので、グループ内の議論はスムーズに行われました。

グループディスカッション終了後、全体に戻って、各グループで出された意見を発表してもらいました。

- ・学生と大人では、モチベーションに差があるのではないか。学生は金がないが時間はある。一方で社会人は時間がないが金はある。メンバーそれぞれが置かれた立場で、時間を捻出し、団体内で役割分担を行い自分ができることに取り組むと良いのではないか。無理をせず、任せたり時には断ったりすることも大事。
- ・自分ができるところで取り組んでいるので両立できている。学生は緩やかに参加することで視野が広がり将来にもつながると、ポジティブに取り組んでいる。
- ・活動も仕事も両立できている。活動も仕事も繋がりがあがりやりたいことをやっていることで、時間に追われていても楽しく取り組んでいる。
- ・楽しさややりがいを感じるのが大事。団体の代表者だけが頑張るものでもないしやりすぎも良くない。いかにメンバーマネジメントを行うかも大事。

等、色々な意見が出されました。

続いて、**テーマ②「若者に・大人に言いたいコト/聞きたいコト」**について、同様にパネリストから意見を述べてもらいました。

- ・島会議「ビジネスでもボランティアでもない活動に取り組む際のファンドレイジングはどのようなようしているか」
- ・自然でトトノウ会「大人の人に、若者のイメージを聞きたい。よく若者からアイデアを聞いたと言われるが、一体何を求めているのだろうか？」

など、これらの疑問も含め、各グループで若者に・大人に言いたいことや聞きたいことについて、再びブレイクアウトルームに分かれて30分程度のディスカッションをしていただきました。

各グループでは、次のような議論が行われました。

- ・資金源については、助成金や補助金が主。助成申請の際には、団体の目的や一つの活動を多面的に見て社会的にどう付加価値を与えられているかをアピールする。そうすれば共感を得ることができる。他にも、企業からの寄付やクラウドファンディングや仲間

づくりをすることなどもある。また、団体内の会費や寄附、事業収入など、手を変え品を変えいろいろなところから集める。そうするためには、支持を集める必要があり、賛同を得ようとする活動の質を上げることが重要になる。

- ・地域に頼られることについてどう思うか質問があった。若者は、声をかけられるのは嬉しい。大人は、遠慮なく素直にどんどん言って欲しいとの意見が上がった。また、資金集めについては、ふるさと納税の枠組みを利用すると地域の経済も回るので良いとの意見があった。
- ・ライフステージの変化と活動の関係について、結婚すると活動が難しくなることが往々にしてあるので、パートナーの理解、協力が必要。
- ・島で活動するにあたって移住しない理由は、別に仕事を持っているから場所を決めずに仕事も市民活動も行っていきたいと考えている。
- ・若者からの意見を求めるのは、地域外の人意見を聞き、地域のニーズとマッチさせ解決に結び付けたいから。
- ・市民活動を本業にしない理由は、市民活動の方が実現しやすいから。

など、多種多様な意見が上がりました。

最後にアドバイザーの吉原さん（「Hello! Hiroshima Project」代表）から一言いただきました。

「活発な議論だった。プレゼンテーションも大変良かった。若者の意見、アイデアはとても貴重。大人が欲しがっているのは、価値がある証拠。胸を張って意見を言ってもらいたいし、ビジネスにする価値もあると考える。」と、若者に対してエールが送られました。

最後に、参加者全員で集合写真を撮影して終了としました。



<主催者感想>

- ・今回の若ツナサミットは、成果発表と意見交換という目的以外にも参加団体以外の若者や大人との繋がりを期待してオープン開催としたところ、2団体以外の若者や大人の方にも入っていただくことが叶い、有意義な意見交換を行うことができたと感じました。
- ・大人の方は、若者と触れ合う機会があまり無く、このような場を求めておられることもわかりました。若者にとっては、学生だけの視点ではなく、違った世代の人と話をすることで新たな気づきを得る機会になったようで、世代間を超えた繋がりの意義深さも感じることができました。

次年度に向けて、活動がより一層広がるように、内容の充実を図ってまいりたいと思います。ご参加いただきました皆さま、誠にありがとうございました。

(本郷)